

和合

No.92
2013.4.20

題字：三浦修次



あれ、あれ〜♪
(4/10 第四幼稚園入園式)

主な掲載記事

和合ってどんなところ.....	2
ふるさとを想う.....	2
年中行事（行事食）.....	3
和合の里のお地蔵様.....	3
老いないために.....	4
和合の交番.....	4
亀治からのメッセージ.....	5
先生あのね！.....	6
私の健康・健康レシピ.....	7
地域インフォメーション.....	8

和合ってどんなところ



庄内警察署 第四学区担当
高橋 栄治 巡査

私は庄内町の住居表示にない和合という意味を知りたくて調べようと思っていたところ「大和」村と「十六合」村の一文字を取って「和合」という名称になったのです。とある人から教えてもらいました。

私は「十六合」を「いざあい」と読めず、どのような意味があるのか興味を持ち文献で調べてみることにしました。文献には十六合村は、明治22年4月1日に十六ヶ村が合体合併して誕生したとあります。当初は「じゅうろくごう村」との名称であったようですが、名称変更の申し出があり「いざあい村」となったようです。

十六ヶ村とは、前田野目、福島、大真木、桑田、千本杉、京島、返吉、新田目、本小野方、吉方、境興屋、西袋、南興屋、中野、南野新田、主殿新田の十六ヶ村でした。

創立直前の明治21年の村勢は、人口2,682人、戸数385戸、総面積730町5反18歩、地価26万8,101円と記載されています。当時の市政、町村制施行では他の町村のように合併、分村などの諸問題で苦労したところもあったようですが、十六ヶ村ではそのようなこともなく円満に推移したとあります。

このように当地区は、昔から人柄の良い協力的な人々の集う地域であったのではないかと思います。

歴史は紆余曲折するものですが、晴れの日も、雨の日も、雪の日も、暑い日も、寒い日も、曇りの日も、大きな事件や事故がなく日々の生活を安寧に暮らしていればみんなが幸せになれるのではないのでしょうか。

ふるさとを想う

戸屋 実さん（京島出身 兵庫県尼崎市在住）

庄内を出てから40数年、昨春退職しやっと自由な時間ができた。そして思い出すのは庄内のこと。私の生まれた京島では当時冬になると、小学校1、2年生は冬季分校であった。1、2年15～6人で同じ教室で1人の先生は猛吹雪の中苦労して徒歩で来られ、給食は村人が交代で本校まで取りに行ってくれた。当時の地域の方々や先生の苦労と愛情が感じられる。また和合中学校は大和と十六合の小学校出身者で、大和は人数も多かったし勉強もできていつも押され気味であった。部活は剣道部で、郡大会で勝ち上がり県大会でも決勝まで勝ち進んだのがとてもすばらしい思い出である。石井多美子先生と「郡大会で勝ったら中華そばをおごってくれ」と賭けをし、まんまとそばをごちそうになった。地域の皆様や先生方のご指導と援助の賜物であった。また和合中学校区をまわる駅伝大会は最高に盛り上がり、放送部などが中継しながらの大会は非常に先進的なものだった。部活の合間にボーイスカウトでよく最上川河畔でキャンプをしたものである。おかげで料理が好きになった。庄内の自然の豊かさと人々の温かさに今更ながら気付かされる日々である。

おぼの年中行事

● ひぎなおし

嫁の初めての里帰り。また、その日、新婦の実家で新郎を招き、新婦の家族と杯をかわす宴である。帰りにはそのねいっぱいに餅をもらい近所に振る舞っていたといわれている。

● さつきじよ(五月下旬)

田植えが出来たところで、三日間のさなぶり休みがあるので、その休みの中で若い嫁や婿が生家に休養に帰るのを「さつきじよ」といった。これは、田植え後の慰労もあったが、生家に身内の者が集まり、田植えに田の神として訪れてきた先祖様と一緒に食事をして稲の豊作と一族の健康を祈り合うことでもあった。

生家では嫁の夫、そして婿の妻をも招待し、帰りにはさつきじよ餅を持たせる習わしがあった。

余目町の民俗年中行事より抜粋

★ 孟宗汁★【5人分】

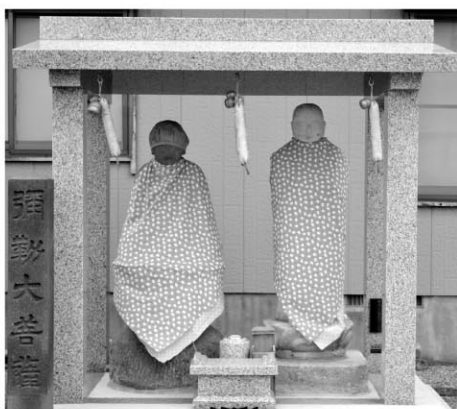
【作り方】

- ①孟宗は、新鮮なものならそのまま皮をむき乱切りにする。
 - ②鍋に孟宗と煮干しと水を入れ、火にかける。
 - ③孟宗が煮えたら豚肉、椎茸を入れ、酒粕と味噌を入れ味を調える。厚揚げを入れて、一煮立ちしたら出来上がり。
- ★孟宗は、皮をつけたまま米のとぎ汁で煮るとえぐみがぬける。

・外皮を2～3枚はがし、深鍋に入れる。赤唐辛子1、2本とかぶる位の米のとぎ汁を注ぎ、落とし蓋をして弱めの中火で50分ほど茹でる。茹で汁につけたまま冷まし、皮をむき水洗いして水を切る。

《材料》

- ・孟 宗…1.5 kg (大ぶりの乱切り)
- ・厚揚げ…1/2枚 (2 cm角位に切る)
- ・生椎茸 … 4 枚 (4つ切り)
- ・豚 肉…150 g
- ・酒 粕…100 g
- ・味 噌…適量
- ・煮干し … 7本



その水害等の難から逃れ平和な生活を望んで、弥勒大菩薩信仰が始まったとされている。石で造られた仏さままで石仏という。当村、阿部治左衛門家の南側に地蔵菩薩と一緒に安置され、屋根覆いが施されていた。頭巾をかぶり、幾重にも腹巻や前掛けが着けられ、どちらが地蔵様か弥勒様かと間違えられやすいが、すぐ隣に石の標柱が立ってわかっていくようになっていて、造立年代は不明ですが、地方にはまれな石造の弥勒菩薩とその隣の地蔵菩薩が沢新田を守り続けている。

阿部家に移設の前は建部神社境内に安置され、混合祀であった弥勒菩薩及び地蔵菩薩は明治元年の『神仏分離令』により、阿部家に移され信仰が続けられていましたが、多くのみなさんの篤い信仰のためにと、平成二十四年現在の宗伝寺に手厚く安置され、開村から三百六十五年を経た現在、今日も沢新田のすべてを守り通している。



イラスト：工藤昭子

沢新田のお地蔵様は現在、宗伝寺境内に鎮座している。

当集落は、最上川の川沿いにある為、川の氾濫で幾度となく被害に遭いその都度、村の一部が上方または連枝へと移住するのが常であった。その結果、連枝は沢新田から別れたこととなる。

みろくたいぼさつ

和合の里のお地蔵様

沢新田編

〈語り手〉浅井多一さん

〈聞き手〉富 樫

“とし”とっても、老いないために!!

春です! まずは「歩くこと」から始めましょう!!

暖かくなり急に身体を動かすようになって、体調不良を感じる方の多い時期です。

したい事、しなければならぬ事がたくさんあって無理をしていませんか?

冬場に運動不足になっている方は、自分の家の周りを歩く事から始めましょう。

ウォーキングでなくても、歩き方や時間を気にせず外を散歩してみましょう。

◎散歩のきっかけになること

- 犬の散歩：目的は愛犬の運動かも知れませんが、それがきっかけで外を歩くようになる方も多いようです。
- 買物：店舗の大きい所では買物を目的にしなくても店の中を歩くだけで、かなりの距離を歩くことになります。
- 旅行：今までに行ったことのない土地や観光地に出かけると、普段よりも歩くことになります。

◎散歩も立派な運動

週3回以上、15分以上の散歩をしている人では要介護状態になりにくく、認知症を予防できるというデータもあります。

毎日の散歩で、生活の中に自然に「歩くこと」が習慣になることもあります。
足腰の痛みに注意して外を歩いてみましょう。

高齢者総合相談窓口(介護相談・心配事などお気軽にご相談ください)

庄内町地域包括支援センター

(介護センターほほえみ内)

TEL 45-1030

庄内町地域包括 立川サブセンター

(庄内町役場立川庁舎内)

TEL 51-2505



和合の交番



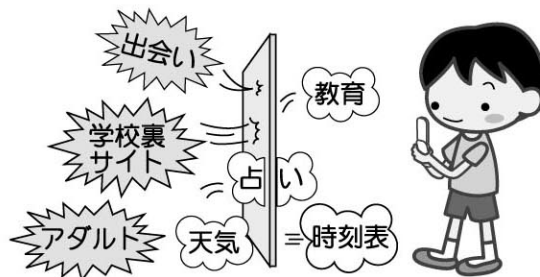
子ども達を守るため、フィルタリングを!

子ども達の安全を守るために、「子どもに見せたくない有害情報を閲覧・視聴させないよう監督すること」は保護者の義務です。

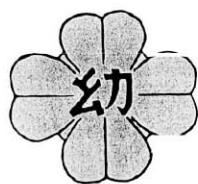
- 18歳未満の子どもが使用する携帯電話にはフィルタリングの利用が義務づけられています。
- 子どもにせがまれても、安易にフィルタリングを解除しないようにしましょう。

スマートフォンの場合

スマートフォンは、2通りの回線(従来の携帯電話回線と無線LAN回線)でインターネットに接続できるため、それぞれに対応するフィルタリングが必要です。
詳しくは販売店にご相談ください。



子ども達の携帯電話やスマートフォンの使い方に関心を持ち、進学・進級を機に新たに携帯電話を持つこの時期、家族で携帯電話やスマートフォンの利用のしかたについて話し合ってみましょう。



よつぱこ通信 第四幼稚園

せんせい、あめね!

～入園式が終わって～

- T(先生)** 「入園式、ドキドキしましたか?
あうちの人もドキドキしたのでは?」
- A男** 「ママ、ドキドキした?」
- ママ** 「うん」とそっとうなずくと・・・
- A男** 「僕はドキドキしなかったよ!」
- T(先生)** (大物だなあ・・・これからが楽しみ♪)



4月10日(水)入園式 第四幼稚園に新しい仲間が加わりました。

新入園児22名、年長児は、転入児1名を迎え27名、計49名の笑顔あふれる子ども達と、元気いっぱいの10名の職員で、平成25年度スタートです。

入園式では、一人一人が名前を呼ばれて大きな声で「はい!」と返事ができました。年長さんは、仲良しペアの新入園児のお友達に手作りしたちゅうりっぷペンダントをプレゼント。みんなにここに笑顔でした。

第四幼稚園は、「遊び大好き、先生大好き、友だち大好きの幼稚園」「保護者や地域と共に創る幼稚園」として、地域・保護者の皆さんと連携を深めて取り組んでいきたいと考えています。

特に、今年度は、去年工事のためにできなかった、泥んこ遊び、砂遊びを思いっきり楽しみます。手で、足で、感触を味わい、いっぱい身体を動かし、いっぱい歩き、体を丈夫にする活動に取り組んでいきます。

～四小っ子～

第四小学校

子育ては、方向性を 同じくして、地域ぐるみで



余目四小では「学力」「かかわり」「挑戦」という3つの重点目標を掲げ、子ども達、教職員が一丸となって、様々な機会を捉えこの3つの重点目標を意識して活動を展開しています。

学校だよりも載せましたが、この3つの重点目標が「企業が大学生に求めている力」にピッタリ繋がっていることを知り、より意を強くしているところです。「企業が大学生に求める力」として、上記3つの力が求められていますが、これらの力を大学生になってからつけようとしても遅いだ

ろうと思います。やはり小さい頃から、あらゆる機会を利用して、意識して身につくよう指導していく必要があると考えます。

学校、公民館、家庭、しいては和合地域全体で連携し、目指す方向性を同じくして様々な取り組みを展開していくことで、より確かな力(社会が求めている力)が身についていくと思っています。

私の健康



高山 花子さん（新田目）

幸せの第一歩はなんといっても、健康であるということでしょう。最近ジムに通ったりいろんな運動をして、体作りをしている人が多いようで大変よいことです。

私は小さい時から（家庭の事情で）踊りをおどってきました。もう七十年あまりになります。特に踊りには足腰が一番で自然と丈夫になるような気がします。若い時は飛んだり跳ねたり、また剣を持っては立ちまわりで大暴れした踊りもしてきました。しかし最近はだんだん無理ができなくなり女形や軽い踊りもするようになりました。

幸い昔から曲に振りを付けるのが大変だったので、曲の内容、人物像を考えたり調べたりして踊りを作りだしています。そして舞踊発表会やボランティアなどで、私の教室で生まれた踊りを披露しています。日夜振りを考えているので、頭の運動、体の運動になっているのでは、と思っています。

先日病院で骨密度の検査がありました。その結果「年齢より随分若いなあ、踊りをやっているからかなあ」とお医者さんが独言のように言っていました。しかし私としては努力しなければならないことがあります。まず甘いものが好き、腹いっぱい食べるのが好き、健康な体で居るためには体重を減らさなくては…解っているのになぜできないのか自問自答のこの頃です。

私の友だちは三ヶ月で体重5Kg落としたそうで、随分格好よくなりました。私も頑張ります。

健康ししぴ

～塩こんぶ炊き込みご飯～



◎材料（茶碗6杯分）

米 3合
塩昆布 30g
梅干し 3ヶ

◎作り方

- ① 洗った米に分量の水、塩昆布、梅干しをいれ炊飯器で炊く。
 - ② 炊き上がったら、かき混ぜ茶碗に盛る。
- ★ 塩昆布の旨みと梅干しがさっぱりとした味になりおいしいです。



他に、マツタケ風お吸い物とエリンギで「なんちゃってマツタケご飯」、ごま油と焼き豚で中華風にツナとなめたけもおすすめて。

地域インフォメーション!!

日本一だんどやあ〜!!

全国公民館連合会主催の第4回全国公民館報コンクールで地域情報誌「和合」が最優秀賞を受賞した。「和合」は地域の関係機関団体のいろいろなこと、そして和合の里のみんなが取り組んでいること、また、地域の歴史や文化などを盛り込みながら、一人ひとりが誇りと愛着をもてる『和合の里』づくりの一つとして発行している。

取材先での世間話や楽しい会話の中にも多くのことを学ばせていただきながら、地域のみなさんと公民館とのつながりが強くなっていることを実感する。「和合さ、写真載んなんが？」との問いかけもあり、地域のみなさんが関心を持っているものだと嬉しくなる。

受賞の際の講評では、【表紙に子どもたちの表情豊かな写真を使っており、その一つひとつに子どもたちの声が聞こえてきそうで、とてもインパクトがあります。タイトルや小見出しなどが凝っていて「応援賞はいただき」や「おらほの年中行事」など読ませる工夫がなされています。字も大きく、読みやすくなっており、記事内容も小さな子どもから高齢者まで読めるような内容が取り上げられていて、バランスがとても良い】という評価をいただいた。

このことは、和合の里の誇りであり、これからもみなさんが主役の紙面づくりに汗を流していきたい。



待ってます！

一緒に地域づくりを…

和合地域づくり会議
企画員（幹事）

地域づくりに関心のある方、様々な活動を通して、みんなで元気に生き生き過ごすために、地域との関わりを持ちませんか？

参加を希望される方は、第四公民館まで連絡をお願いいたします。

学ぶあなたを応援します♪

町民大学「歴史民俗学部」
～山形民俗紀行Ⅱ～

今に受け継がれる山形の伝統文化にふれ、地域の魅力を再発見します。

お申込み方法につきましては、5月5日号の広報「しょうない」をご覧ください。

☎44-2162

編集後記

春がそこまで来ていたり、遠ざかっていったりと、桜が咲く日を待ちながら、第四幼稚園の入園式で可愛い花が満開となった…。

毎年、微笑ましく見守るお家の方の姿やちよっぴり先輩の顔をした年長さん、緊張気味の新人園児が印象的だ。

そこで感じたのは、子どもたちの数が少ないなあ〜ということと幼稚園児が居ない部落があるのにもおどろきで、「幼稚園のバスを見かけることがなくて淋しいの〜」との声も聞かれる…。

元氣いっぱい駆け回る子どもたち、そして畑仕事に精を出す人、それぞれに和合の里の一年が始まる。